



自ら取り組む集落の復興と 支援の方法

～大船渡市三陸町崎浜地区～

特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター

常務理事 若菜千穂

1. 当センターの紹介

* 「いわせん」の概要

- 平成17年度に設立
- 岩手大学農学部 of 広田純一教授が立ち上げる
- 専属職員 4 名（常勤 3 名、パート 1 名）、ほか学生スタッフ多数

* 活動内容

- 地域住民、N P O、行政等が対等な関係を築き、持続的な地域づくりを進めていく支援
- 自らが地域づくりに取り組むためのサポート（中間支援）
 - 地元学から地域づくりへ（西和賀町、紫波町内の各地区）
 - グラウンドワーク：住民主体で公園をリフォーム（盛岡市）



2. 崎浜との出会い

*崎浜地区との出会い

- 平成20年度から、農村と漁村の交流事業（花巻市東和町浮田地区）
- いわせんは、事務局や合意形成（ワークショップ）を支援

*大船渡市三陸町崎浜地区

- 世帯数206戸、うち46世帯が被災、死者行方不明者10名

*復興支援の方法

- 崎浜地区が主体となって立ち上げた**復興会議**の委員及び事務局
- 復興会議の運営にかかる費用を**助成金**を獲得支援
 - 地域創造基金みやぎ（H23.12～H24.5）
 - 岩手県「新しい公共モデル事業」（H24.5～H25.3）
- 他の支援団体との**仲介**
 - 株式会社ルミカ...パオ3棟を設置
 - 有形デザイン株式会社...番屋を建築

3. 崎浜地区の概要と復興会議の立ち上げ

*崎浜地区復興会議の立ち上げ

- 平成23年6月29日に、崎浜公益会が中心となって立ち上げ
- これまでに、7回の会議（ワークショップ方式含む）
- 被災者連絡会議と3つのプロジェクトチームも始まる

被災地域

公民館

崎浜小学校

仮設住宅



被災後の崎浜集落全景

4. 復興会議の様子

*委員22名

➤ 自治会会長、自治会理事、被災者代表、元市長、岩手大学、NPO



↑ 復興会議の様子

山古志視察の様子→
(3/24~26)



5. 復興会議の検討の経緯

*検討の経緯

- H23.6.29 第1回復興会議 ...地区の課題整理
- H23.7.29 第2回復興会議 ...岩手大学教授、いわせん参加
- H23.10.31 第3回復興会議 ...委員増員、ワークショップ形式で課題整理
- H23.12.2 第4回復興会議 ...最重要課題は住宅再建、集落移転で合意
(12/3 移転候補地の現地調査)
- H24.1.18 第5回復興会議 ...調査結果報告、候補地の検討、堤防の高さ
(1.22 第1回被災者連絡協議会)
- H24.2.22 第6回復興会議 ...候補地の再検討、課題の絞り込み
(3/24-26 中越地震被災・復興視察、委員16名)
- H24.4.27 第7回復興会議 ...視察結果報告、プロジェクトチーム決定
(5.12 第1回プロジェクトチーム全体会)
- H24.6.7 第8回復興会議 ...市から移転候補地の最終提案
(6.14 移転希望者説明会)
(6.27 被災者連絡会事務局会議)

6. 動き出した復興活動 ～3つのPJ～

* 「かげひきがたり番屋」チーム

- 被災前は浜が交流の場だった。
- それに代わるたまり場作り
- 漁師のお父さん中心
- 東京の設計会社の支援も受ける



* 記念誌チーム

- 被災前や被災の写真や映像を集める
- 仮設のお母さん中心



* さきはまHPチーム

- ふるさとを離れて暮らしている人へ崎浜の復興の情報を伝える
- 若者へのアピール
- 20代の若者中心



7. 復興会議におけるいわせんの関わり

*復興会議の事務局

- 会議の前に、毎回事務局会議を開催し、現状の把握、会議の進め方について協議
- 会議資料の作成、印刷等

*活動資金の確保

- 地域創造基金みやぎ（H23.12～H24.5）
 - 会議運営にかかる印刷やお茶代
 - マイクの購入
 - 視察費用
- 岩手県「新しい公共モデル事業」（H24.5～H25.3）
 - 会議運営にかかる印刷やお茶代
 - プロジェクトチームの活動資金（プレハブ購入費、記念誌印刷費、HP構築費）
 - 被災者のファイナンシャルプラン等の支援にかかる費用

8. 他の支援団体との仲介

*被災地を支援したいと考える企業や団体とのマッチング・仲介

➤ パオ 3 棟

- 九州の企業、株式会社ルミカ
- 遊休農地を活用した畑の資材保管、バス停
- **いわて連携復興センター**での情報交換
 - 岩手県内の中間支援NPOのグループ
 - 被災後に設立（宮城や福島にも同様の組織有）
 - 主に県内外のマッチングに尽力



➤ 「かけひきがたり番屋」の設計と建設

- 東京の設計会社、有形デザイン株式会社
- 何か集会所のようなものを建設したいと
仮設住宅に話をし、いわせんが紹介される
- 番屋の設計と建築



9. 今後の支援、連携のあり方

*被災者がその都度直面する課題への柔軟な対応

- 課題は、住宅再建に移る
- そのため、きわめて個人的なサポートが必要
- ただし、「個人で工務店等と折衝するより、まとまりたい」という意向
- 横浜版復興モデル住宅を模索中
 - 建築士協会、学識者、工務店等に問い合わせ中
- どのような形でならまとめられるかも模索中
 - 全被災者に聞き取り調査を予定
 - 求められる支援を把握する

地域に長期で寄り添う
支援者の必要性



長期にわたる
助成金獲得が課題

*広いネットワーク、仲間づくり

- いわせんとしても、経験のない支援
- 毎回手さぐり
- NPO仲間、学識者ネットワーク、被災経験地の支援者
- HP、メールのありがたさ

多くのご支援をありがとうございます。
これからもよろしくお願いします。

崎浜HP <http://iwasen-sakihama.blogspot.jp/> (製作中)

いわせんHP <http://iwasen.net/>

メールアドレス wakana_2005@iwa-c.net